
ひととき

槻誓雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひととき

【コード】

N6726I

【作者名】

槻誓雄

【あらすじ】

ゼロとシエルのちょっとした会話です

ゼロの1と3しかやってないのでゼロの言うことがおかしいかもしれませんがお付き合い下さい

ゼロの長い髪の毛が冷たい風でなびく

鳥の声がして上を向くと木にとまった小柄な鳥がいた

ゼロは鳥を見つめながら歩き出す

上を向いて歩いてきたため地面のでっぱりに足をひっかけた

無様に転ぶということはなかったがバランスを崩し下を見る

ゼロは立ちどまって上を見上げるが、鳥は飛び去ってしまったの
いなかった

そのとき、後ろでかすかな笑い声が聞こえた

後ろをふりかえると金髪に蒼い瞳の少女、シエルがいた

彼女はゼロの視線に気付いた

「ごめんなさい、ゼロ、あなたもやっぱり生きているんだなって思
って」

「生きている？オレはレプリロイドだ」

するとシエルは怒ったような顔をした

「呼吸しているから生きていうっていうわけじゃないわ。怒ったり、

悲しんだり、嬉しかったり、つまり
いたりするのが生きているってことだと思っわ」

シエルはゼロを見つめ

「怒った？」

「ああ」

するとシエルは嬉しそうな顔をして

「それが、生きている証」

ゼロはシエルを見つめ、沈黙が二人を支配する

そしてゼロはなんの前ぶれもなしにシエルに背を向け歩き出した

しかし、数歩もいかないうちに立ち止まった

なぜなら、自分の名前を呼ぶ声がきこえたからだ。

ゼロは立ち止まって振り返る

すると、シエルのうつむいた不安そうな顔が見えた

「わたし、恐いわ、ゼロは強いかもしれないけどいつか帰ってこないかもしれないって考えると怖い」

ゼロはシエルをまっすぐ見つめた

「・・・シエル、オレは必ず生きて帰ってくる」

そう言いつつゼロはシエルに背を向け歩き出した

(後書き)

初投稿の槻誓雄です

駄文ですが読んでくださりありがとうございます

またいつ投稿するか分かりませんがたまたまに見てくださるとうれしいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6726i/>

ひととき

2010年10月10日21時26分発行